

はじめに

平成 25 年度は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定更新を受審しました。この病院機能評価は平成 25 年度から評価基準が見直されましたが、当院は、新しい評価基準における一般病院 2（主として、急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院）の区分で認定されました。認定にあたり、「地域の医療機関と適切に連携していること」及び「感染防止対策が適切であること」について最高ランクの S 評価をいただきました。引き続き、地域の医療の充実のために、地域の医療機関と連携しながら、安全で質の高い医療サービスの提供に努めてまいりたいと思いを新たにいたしました。

地域の医療機関との連携につきましては、病診連携懇話会、病診連携懇談会及び登録医意見交換会を継続して開催するなど、情報交換、意見交換を進めながら、連携の強化に力を注いでまいりました。その結果、連携医療機関は 343 機関（前年度 325 機関）と増加し、また、紹介率は 58.0%（前年度 56.1%）、逆紹介率は 77.4%（前年度 75.0%）と向上することができました。

また、引き続き、患者さまの体に負担の少ない医療の提供を推進するために、内視鏡手術機器及び検査機器を新たに購入するとともに、より安全で質の高い手術を実施できるよう、手術室を改修し、環境改善を行いました。そして、MRI 装置（磁気共鳴画像診断装置）を増設し、患者さまの検査待ち日数の短縮を図り、診療体制の充実を図りました。

当院は、急性期病棟に加え、回復期リハビリテーション病棟を有しておりますが、リハビリテーション医療のより一層の充実を図るため、新たに理学療法士などを 6 名増員し、回復期病棟だけでなく急性期病棟においても 365 日のリハビリテーションを開始し、リハビリテーションの増強に努めました。

これらの取り組みを行った結果、病床稼働率は 95.9%（前年度 92.9%）となりました。また、経営的には、約 1 億 2 千 5 百万円の黒字となり、前年度と比較すると、約 2 億 3 千万円の収支改善となりました。これは、市立病院改革プランで設定した収支目標（1 億 4 千 3 百万円の赤字）を上回るものであり、改革プランがスタートして 5 年連続の目標達成となりました。また、一般会計からの繰入金を除いた実質的な赤字額は約 1 億 3 千 6 百万円となっており、改革プラン策定前と比較すると、約 11 億 1 千万円の収支改善を達成することができました。

国の医療制度改革や消費税率の引き上げなど医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっておりますが、今後も引き続き、自治体病院としての役割を果たしつつ、経営の健全化を図り、「地域の皆さまに信頼され、愛される病院」として地域医療に貢献してまいります。

平成 26 年 8 月

箕面市病院事業管理者 重松 剛
箕面市立病院総長 田村 信司
箕面市立病院病院長 黒川 英司